



特集

JCASの活動と 公募プログラム紹介

JCAS とは / JCAS の公募プログラム紹介

写真：ケニア北部イシオロ近郊の道。地中海からケープタウンまでアフリカ大陸を南北に縦断する車を通るこの道沿いでは、牧畜民トゥルカナの人たちがわずかな木々を炭にして生活の足しにしている。雨が多く豊富な植生を利用できる山地と、極端に乾燥する低地の間で形成されたローカルな自然と人間との関係を基盤として、グローバルな要因を受けながら、地域の牧畜体系が成立している。（柳澤雅之）

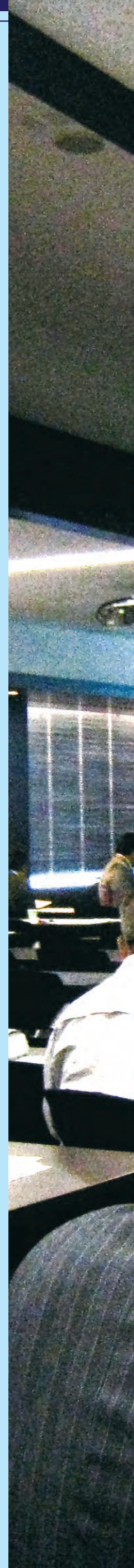
JCAS NEWSLETTER

地域研究コンソーシアム（JCAS）の活動は、毎年更新されています。

今回の JCAS ニュースレターでは、設立当初に比べて格段に活動領域が拡大した JCAS のさまざまな取り組みの全体像をご説明し、特に、2010 年度から大幅に増加した、各種公募プログラムについてご紹介いたします。JCAS の概要を知っていただき、さまざまな公募プログラムに応募していただければ幸いです。

特集 JCAS の活動と 公募プログラム紹介

JCAS とは	3
JCAS の運営体制	
1. 地域研究を設計する	
2. 学問分野の枠を越える	
3. ネットワークを広げる	
4. 市民社会とつながる	
5. 情報基盤を築く	
JCAS の公募プログラム紹介	7
次世代支援プログラム	
共同企画研究	
共同企画講座	
オンデマンド・セミナー	
学会連携プログラム	
特定課題研究	
JCAS 加盟組織一覧	14
2012 年 JCAS 年次集会関連スケジュール	16



JCAS とは

まず、JCASについて簡単に説明します。JCASとは、世界各地の地域研究にかかわる、大学の教育・研究機関、各種プロジェクト、学会、NGO等からなる、ゆるやかな連携組織です。2004年4月に46の組織で発足し、2012年9月現在、93の組織で構成されています。本紙14ページに加盟組織の一覧を掲載していますのでご覧ください。

JCASの運営体制

現在、JCASでは12の幹事組織を基盤として理事会・運営委員会が組織されています。理事会と運営委員会の活動を支援するために事務局が置かれています(※)。

JCASの日常的な活動は、運営委員会に設置された10の部会と1つのワーキンググループによって相互に連携しつつ運営されています。部会・ワーキンググループの活動は、2010年度以降、以下の5つのカテゴリーに分けることができます。

1. 地域研究を設計する
— 素材や資源の多角的活用 —
2. 学問分野の枠を越える
— 共同研究の推進 —
3. ネットワークを広げる
— 学界における地域研究のプロモート —
4. 市民社会とつながる
— 地球規模の課題に関する成果の還元 —
5. 情報基盤を築く
— 活動内容や成果をさまざまな形に「翻訳」して広く発信 —

※ 現在の幹事組織は、北海道大学スラブ研究センター、東北大学東北アジア研究センター、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、上智大学アジア文化研究所、上智大学イベロアメリカ研究所、愛知大学国際中国学研究センター、京都大学地域研究統合情報センター、京都大学東南アジア研究所、京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、人間文化研究機構国立民族学博物館、日本マレーシア学会の12組織です。幹事組織となり、積極的にJCASの運営にかかわっていただける研究機関がありましたら、まずは事務局(jcasjimu@jcas.jp)までご連絡ください。

1. 地域研究を設計する

—素材や資源の多角的活用—

JCAS加盟組織に分散して所蔵されている地域研究関連資料を相互に利用可能な形で共有化することを検討する情報資源部会、地域研究の方法論を研究分野や対象地域を超えて検討する地域研究方法論部会、JCASのネットワークを利用した地域研究の将来構想を検討する将来構想ワーキンググループがあります。

情報資源部会では、現在、図書や統計・地図資料の相互利用、フィールドノートの共有化、研究者によるデータベースの公開支援サービスの開発等を進めています。

地域研究方法論部会では、部会メンバーが国内の大学院や学部に出向き、それぞれの組織の教員や学生が直面する地域研究方法論の課題について意見交換する「巡回研究会」を開催してきました。組織をこえて方法論に関する多種多様な課題を共有し、同様の課題に直面する機関との連携や、解決に向けた取り組みを推進しています。

将来構想ワーキンググループでは、すべての部会と協力しながら、JCASのネットワークを通じたJCASでしかできない地域研究の新しい取り組みを検討しています。

2. 学問分野の枠を越える

—共同研究の推進—

さまざまな学問分野の専門家と共同しながら研究を進めることは、地域研究にとって大なり小なり必要なプロセスです。そのために共同研究会を通じていかに研究交流を促進するかは、地域研究にとって大変重要な課題です。JCASでは、年次集会部会、次世代支援部会、研究企画部会、研究交流促進部会を設置し、共同研究の推進のための活動を行っています。研究企画部会はJCAS主催の研究集会を企画し、次世代支援部会と研究交流促進部会は各種公募プログラムを通じて研究交流を促進しています。年次集会部会は年次集会を運営することで加盟組織どうしの研究交流を促進しています。本紙の7～13ページで、特にこれらの部会が企画・運営している各種公募プログラムについて詳しく説明します。

年次集会部会の運営により、JCAS加盟組織が一堂に会

する場として、毎年11月の第1週に年次集会を開催しています。2012年度の年次集会は11月3日に北海道大学で開催します。年次集会にあわせて行われる公開シンポジウムでは、研究企画部会の企画により、毎年異なるトピックのもと、地域研究に共通する課題を取り上げています。2012年度のトピックは「地域研究と自然科学の協働—広域アジアの地域研究を例に—」です。また、年次集会の前後の期間をコンソーシアム・ウィークとし、JCASが主催・共催する関連シンポジウムを行っています。今年度の年次集会・公開シンポジウム、コンソーシアム・ウィークの研究課題とプログラムの概要は本紙の裏表紙に記載していますので、ご覧ください。

次世代支援部会のもとでは次世代地域研究者を対象とした「次世代支援」が、そして研究交流促進部会のもとでは一般の研究者を対象にした「共同企画研究」、「共同企画講義」、「オンデマンド・セミナー」、「学会連携」の4つの公募プログラムが実施されています。詳しくは8～13ページをご覧ください。

3. ネットワークを広げる

—学界における地域研究のプロモート—

広く学術関係の世界（学界）における地域研究の発展と、これによる学術的貢献を目標として、日本学術会議や地域研究会連絡協議会、地域研究関連学会等、さまざまな組織との連携を図っています。たとえば、日本学術会議の地域研究小部会と協力し、地域研究を促進するための提言の作成やパブリックコメントの収集にも協力しています。これらの活動は、JCASの情報基盤の整備や共同研究の推進によって進めています。また、研究交流促進部会のもとで行われる「学会連携」公募プログラムにより、JCAS加盟組織のうち、学会を中心とする加盟組織どうしの連携を支援しています。

4. 市民社会とつながる

—地球規模の課題に関する成果の還元—

社会連携部会は、地域研究の学術的成果を市民社会に還元することを目的としています。これまで社会連携部会では、とくにNGO/NPOとの連携の模索を中心に活動してきました。災害発生時の人道支援（緊急・復興支援）と地域研究の連携は、そのひとつの例です。人道支

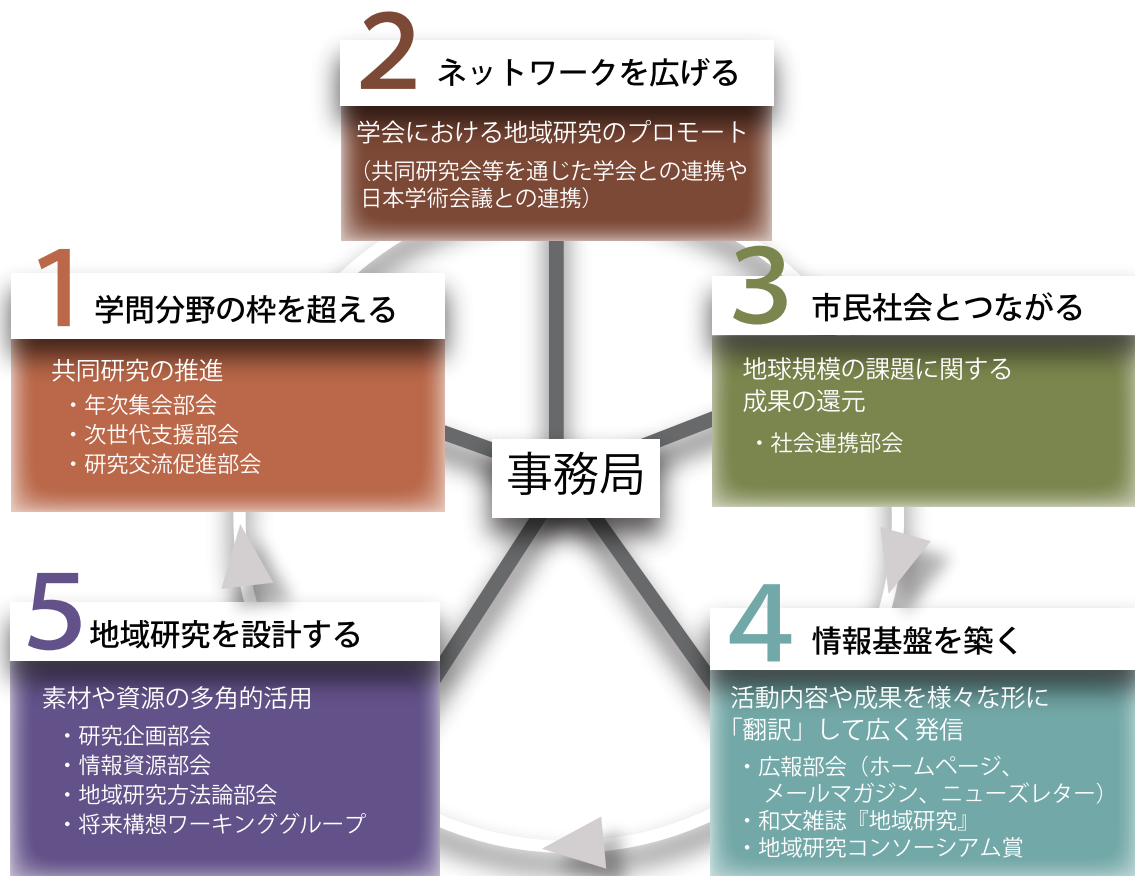


図. JCAS の活動

援団体による初動調査や事後評価に JCAS が紹介した地域研究者が同行するなどの活動は、人道支援に携わる実務者の方からも高い評価を得ています。

2011 年度からは、加盟組織から募集した社会連携活動を JCAS 社会連携プロジェクトとして登録し、プロジェクトどうしの情報交換や連携を支援しています。現在、3つの分野に 7つの JCAS 社会連携プロジェクトが登録されています。

1. 災害・紛争への対応
「災害対応の地域研究」プロジェクト (2004 年度～)
3.11 被災後のディアスポラコミュニティにおけるコミュニケーションの総合的研究 (2011～2012 年度)
2. 地域研究の成果の社会での活用
地域研究と外交実践の連携プロジェクト (2011 年度～)
アジアと日本を結ぶ実践型地域研究プロジェクト (2012 年度～)
研究・教育＝ NGO/NPO 人材交流プロジェクト (2004 年度～2010 年度)
3. 地域研究者のライフとキャリア
地域研究者のキャリアデザイン・プロジェクト (2010 年度～)

女性地域研究者のライフ・キャリアネットワークプロジェクト (2012 年度～)

また、研究交流促進部会のもとでは、NGO/NPO や国際交流団体、民間企業の要請に応じて、海外に特定地域の情報や調査方法、社会連携の手法等に関する講義やセミナーを行う講師を紹介・派遣する「オンデマンド・セミナー」を開催しています (11 ページ参照)。

5. 情報基盤を築く

—活動内容や成果をさまざまな形に「翻訳」して広く発信—

JCAS の活動を紹介するだけでなく、地域研究全体の動向に目を配り、さまざまな地域研究関連情報を複数の媒体から発信しています。

JCAS ホームページでは、地域研究に関連する研究会等のイベント情報、人材やプロジェクトの公募情報、研究者や研究機関の発行する出版物情報を体系的に提供するポータルサイトを実現しました。また、ポータルサイトと連動させる形で、メールマガジン「JCAS News」を通じて、地域研究関連情報を毎週配信しています。

運営委員会のもとに置かれた『地域研究』編集委員会により、和文学術雑誌『地域研究』を編集・刊行してい

ます。年2回発行され、各号は特集企画および査読付きの個別論文によって構成されています。特集企画および個別論文は随時募集しています。

JCAS ニュースレターは、年2回発行され、学会を除く加盟組織のすべての構成員に配布されています。JCASの活動内容の紹介だけでなく、地域研究の新しい動向や試み、加盟組織によるユニークな取り組み等、さまざまな記事を紹介しています。

このほかに、地域研究ならではの活動を紹介し、促進する意図を込めて、2011年に地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）を創設しました。JCAS賞には、研究作品賞、登竜賞、研究企画賞、社会連携賞の4部門があり、外部の有識者によって選考が行われます。研究作品賞は、個人ないし共同による学術研究業績で、公刊論文ないし図書が対象です。登竜賞は、大学院生および最終学歴修了後10年程度以内を目安とする研究者による学術研究業績で、公刊論文ないし図書が対象です。研究企画賞は今後の地域研究の動向に対して大きなインパクトを与えたシンポジウムの開催や研究プロジェクトの遂行などの企画に対して贈られ、社会連携賞は学術研究以外の分野で賞の趣旨に合致する活動実績に対して授与されます。自薦・他薦を問わず、多数の応募をお待ちしています。

こうした活動を通じて、JCASは、緩やかな連携組織であるという特徴を最大限にいかした新しい地域研究の展開を目指しています。



和文学術雑誌『地域研究』



JCAS ニュースレター

JCAS の公募プログラム紹介

JCAS では、共同研究を推進して市民社会との連携を強化するために、「次世代支援」、「共同企画研究」、「共同企画講義」、「オンデマンド・セミナー」、「学会連携」の5つの公募プログラムと、特定課題研究の公募を実施しています。

いずれも、JCAS の学術ネットワークを利用して、研究会の開催や講義への講師の派遣、特定の地域や課題に対する調査手法や手続き・分析手法に関する特殊なセミナーの開催、学会との連携強化のための活動等をサポートするための公募プログラムです。

公募時期は、2012 年度の場合、「次世代支援」が8月、その他のプログラムが6月と9月です。毎年、おおよそこの時期に公募しますので、応募を考えている方は、この時期の JCAS ホームページをご覧ください。

特定課題研究では、JCAS 加盟組織との共催で共同研究プロジェクトを公募しています。2012 年度には、京都大学東南アジア研究所と共催し、「東南アジア研究の国際共同研究拠点」の共同研究プロジェクトを公募しました。また、2013 年度に実施する共同研究プロジェクトとして、京都大学地域研究統合情報センターとの共催で「災害対応の地域研究」と「地域研究方法論」に関する共同研究プロジェクトを現在、募集中です（2012 年 11 月 30 日応募締切）。これらの公募情報は HP やメールマガジン「JCAS News」でもお知らせしていますのでご確認ください。

以下では、公募プログラムごとに、対象とする課題や想定している応募者等について説明します。

次世代支援プログラム

次世代支援プログラムは、博士後期課程の大学院生、各種研究員、助教などの次世代研究者のイニシアティブによるワークショップやセミナーの企画・開催を支援します。

本プログラムでは、会議費や旅費等の単なる財政的支援だけでなく、求めに応じて企画・開催にあたっての専門的助言や、企画に適した研究者および実務者の紹介もおこないます。これにより、大学等の研究機関の壁を超えた連携性、異なる専門領域の交流、地域研究にかかわる研究者および実務者（NGO/NPO等）による研究企画を特に奨励します。

プログラムの助成金額は40万円程度で、採択は年間数件です。

次世代支援プログラムは、いくつかの枠によって募集されます。募集枠は、協賛組織の有無によって、毎年変更があります。2011年度は、JCAS 幹事組織からの助成枠として、大阪大学グローバルコラボレーションセンターによる募集枠と、京都大学東南アジア研究所による「東南アジア地域研究」枠、北海道大学スラブ研究センターによる「境界研究（ボーダースタディーズ）」枠、京都大学地域研究統合情報センターによる「自由課題」枠と「年次集会開催」枠とがありました。採択課題は以下の通りです。

2011 年度採択課題

募集枠	企画題目	企画責任者	開催日
年次集会開催 (JCAS 年次集会にあわせて開催)	イスラームが経済に与えるインパクト—グローバル・モダンにおけるその実態とダイナミズム—	福島康博 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員)	2011年 11月6日
大阪大学	大阪のトランスナショナルな子どもたちの教育を考える	矢元貴美 (大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程)	2011年 11月6日
東南アジア地域研究	東南アジアにおける「地域」とは何か	伊藤未帆 (日本学術振興会・特別研究員／京都大学)	2012年 1月8日
境界研究 (ボーダースタディーズ)	文明の境界、政治の限界—比較の中のパレスチナ／イスラエル複合紛争	飛奈裕美 (日本学術振興会・特別研究員／京都大学)	2012年 1月中旬
境界研究 (ボーダースタディーズ)	「人間と動物の境界」は地域研究の対象たりえるのか—アフリカとメラネシアからの発信	田所聖志 (東京大学大学院医学系研究科・特任助教)	2012年 2月13日
自由課題	墓場で／から繋がる—墓石をめぐる学術的研究の可能性	小西公大 (東京外国語大学・特定研究員)	2012年 2月4日
自由課題	地域研究とキャリアパス—地域研究者の社会連携を目指して	日下部尚徳 (日本学術振興会・特別研究員／大阪大学)	2012年 2月11日

2012 年度採択課題

募集枠	企画題目	企画責任者	開催予定日
自由課題	現代の紛争をめぐる地域間比較研究—アフリカとオセアニアの事例から考え	藤井 真一 (大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程)	2012年 11～12月
国際協力・グローバル共生枠	東アジアの境界を超える人々と宗教をめぐる諸問題—宗教社会学と公共人類学の対話から	藤野 陽平 (日本学術振興会・特別研究員)	2012年11月18日、2013年1月27日
境界研究 (ボーダースタディーズ)	地域の「対外的境界」と「内なる境界」—東欧と中国語圏をめぐる研究者の対話	香坂 直樹 (跡見学園女子大・兼任講師)	2013年 1月12日
フィールドネット・ラウンジ 枠	地域の論理—「スーダン」における人々の営みを辿って	飛内 悠子 (日本学術振興会・特別研究員 / 上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科博士後期課程)	2012年 12月8日頃
フィールドネット・ラウンジ 枠	「人間・動物・モノ」の境界とは?—アフリカ・メラネシアの地域研究への貢献—	須田 征志 (名古屋大学大学院文学研究科・博士研究員)	2013年 2月2日

共同企画研究は、JCASの加盟組織どうしが共同で企画・実施する研究企画を支援するプログラムです。

地域研究の研究対象は実に多様であり、そのことを反映して地域研究に携わる機関も多様です。JCASの加盟組織は、それぞれが専門とする分野で地域研究の成果を蓄積してきただけでなく、所蔵資料・データベースや研究・教育施設など、機関ごとに他に見られない特徴を備えています。JCASでは、これらの所蔵資料やデータベースを共有化し、研究・教育施設を共同で利用することにより、加盟組織を横断して行われる研究を試みてきました。さらに多くの加盟組織を巻き込んだ共同研究を促進するため、JCASに加盟する複数の組織が共同で企画実施する研究企画（本企画）を支援します。また、共同研究に至る準備段階の研究会も萌芽企画として、あわせて公募しています。

2012年度は、本企画・萌芽企画のテーマとして、国際協力・グローバル共生（大阪大学グローバルコラボレーションセンターによる助成枠）と自由課題（京都大学地域研究統合情報センターによる助成枠）とを設定しています。助成金額は萌芽企画が20万円、本企画が40万円を上限としています。採択予定件数は数件です。

2010年度に採択された課題

「ASEAN・中国19億人市場の誕生とその衝撃」（2010年11月3日愛知大学にて開催）は100名以上の参加者を集め、その成果がJCAS Collaboration series No.1として公開されています。

JCAS Collaboration series No.1

（2011年3月発行）

「ASEAN・中国19億人市場の誕生とその衝撃」

田中英式・宮原暁・山本博之 共編

発行者：地域研究コンソーシアム・京都大学地域研究統合情報センター・愛知大学国際中国学研究センター

共同企画講義

共同企画講義は、JCASのネットワークを活用して特定のテーマごとに講師陣を組み、大学等で開講する「出張講義」です。

今日の世界にはさまざまな課題があり、しかもその多くは複数の地域にまたがって展開されるため、大学や学部・研究科ごとの組織の縦割り構造の中では、それらの課題を取り上げて多面的に講義することが困難である場合が生じます。JCASの共同企画講義は、特定のテーマに関する専門家を複数の所属先から集めて講師陣とし、要望に応じて大学等

に出張して講義を行います。それぞれのテーマについて、JCASのネットワークを通じて最も適切な専門家を集め、既存の大学や学部・研究科の枠にとらわれずに最先端の研究をお届けします。

助成枠には、「企画」枠と、「実施」枠とを設けています。「企画」では準備段階として萌芽的な企画を募集しています。2011年度の助成額は、「企画」が15万円、「実施」が40万円をそれぞれ上限とし、採択課題は以下の通りでした。

「企画」枠

「最先端の地域研究者によるエスノグラフィ論特別講義」

代表者：中川理（大阪大学グローバルコラボレーションセンター・特任准教授）
宮原暁（大阪大学グローバルコラボレーションセンター・准教授）

概要：JCASのネットワークと人材を活用して、地域研究の重要な技法のひとつであるエスノグラフィ（民族誌）について出張講義を、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）の「フィールドワーク関連科目群」の一環として実施する。

実施大学：大阪大学（2012年度実施予定）

「実施」枠

〈カタストロフィ〉を生きる——地域文化研究から見る災いの経験

代表者：西芳実（京都大学地域研究統合情報センター・准教授）

概要：本講義では、セルトーが言う意味での「異（い）なるもの」の噴出を〈カタストロフィ〉として捉え、ある特定の地域、特定の時代における社会が、みずからの期待可能性を裏切り、擾乱するものとして現出する〈カタストロフィ〉をどのように経験したのか、そしてその後の日常的秩序の再構築をどのように行い、それをどのような復興の過程として経験したのかを、地域文化研究という領域から考察する。

実施大学：東京大学駒場キャンパス（2011年度冬学期実施）

また、2010年度には次のような講義を行いました。

地域文化研究から見る災害と復興支援

代表者：西芳実

概要：世界のさまざまな地域で発生する災害に対して、どのように取り組むべきか。それぞれの社会の特徴や課題を踏まえた上で、日本の防災研究の知見を生かした国際貢献はどのように可能か。本講義では、多様な専門性をもつ講師陣が、学術研究と現場実践の双方における最先端の取り組みをオムニバス形式で紹介します。

実施大学：東京大学教養学部

オンデマンド・セミナーは、JCASのネットワークを利用した、地域研究専門家のヴァーチャルな「JCAS 研究者バンク（仮）」をもとに、社会からの要望に応じて地域研究の専門家を紹介するプログラムです。「JCAS 研究者バンク（仮）」には、長く学界を牽引してきた著名なシニア研究者や、現地滞在経験が長く対象地域に関する深い理解と最新の情報を持った若手研究者などのように、常勤の研究職に就いているかどうかにとらわれず、優れた地域研究の専門家が登録されています。国内で学べる場が少ない言語や文字の講習、異文化社会で共同作業を進めるための知識や工夫の紹介、今日の世界における問題

とその背景についての専門家の意見など、セミナー、講演、ワークショップ、講習などの具体的な企画に応じて地域研究の専門家を紹介します。大学の現教員という枠を超え、若手からシニアまで、優れた専門家の知識と経験を、それを必要としている人々のもとに届けます。

助成額は1件10万円を上限とし、年間数件程度を採用します。2011年度は、共催企画と関連セミナーとして以下の活動を行いました。

共催企画

「民族誌映像ビデオ実習講座」

代表者：高倉浩樹（東北大学東北アジア研究センター・准教授）

概要：人類学などをはじめとするフィールドワークを必要とする分野に必要な映像記録（ビデオ）の技術・実践についての講習会の開催。

関連セミナー

「ジャウィ文献講読講習会」

代表者：坪井祐司（日本マレーシア学会・運営委員）

概要：東南アジアのムスリム社会を理解するうえで不可欠であるジャウィ（アラビア文字によるマレー・インドネシア語の表記法）で書かれた文献を講読する方法の講習会。日本マレーシア学会連携研究会「ジャウィ文献と社会」研究会と共同開催。



学会連携プログラム

学会連携プログラムは、学会を中心に加盟組織を横断する形で企画実施される研究企画を支援します。

今日では、多様な経歴や背景を持つ人々による研究活動が増えつつあり、特に地域研究では大学の外で行われている調査研究も重要になってきました。このような状況では大学の内と外の研究をつなぐことが重要な課題となるため、経歴や年齢によらず自らの意思によって参加できる学会の役割が重要になります。学会連携プログラムでは、JCAS に加盟する学会どうし、あるいは学会と他の加盟組織が共同でパネルやシンポジウムを企画実施することにより、単独の学会で十分にカバーできない他地域の専門家の参加を得て地域横断的な比較検討が進められるような研究企画を支援します。

助成額は 40 万円を上限とし、数件を採用します。2011～12 年度の企画は以下の通りです。

特定課題研究

JCAS 加盟組織との共催により、特定課題に関する研究企画の公募を行っています。2011 年度には、京都大学東南アジア研究所の「東南アジア研究の国際共同研究拠点」として、東南アジア研究を推進するための萌芽的な研究プロジェクトを公募しました。2012 年度には、京都大学地域研究統合情報センターとの共催により、「災害対応の地域研究」と地域研究方法論の 2 つの共同研究プロジェクトを公募しています。

日本南アジア学会

「第 24 回全国大会における JCAS 加盟組織共同による複数のセッション企画」

開催期日：2011 年 10 月 1 日（土）～2 日（日）

代表者：秋田茂（大阪大学文学研究科・教授）

概要：テーマ別セッション「Migration History around the Indian Ocean World since the Seventeenth Century」「Reorganization of states in India」「19 世紀後半から 20 世紀初頭の地域社会におけるマールワリー・プレゼンス」および共通論題「イスラーム的世界としての南アジア—接触領域のダイナミズム」での発表者の招聘。

日本華僑・華人学会、マレーシア学会

「アジアのディアスポラ文学—日本とマレーシアの交流文学事例から—」

開催期日：2012 年 10 月 27 日（土）

代表者：舛谷鋭（立教大学観光学部交流文化学科・教授）

概要：日本の事例（日華文学）をディアスポラ文学研究としてほぼ確立したマレーシアの事例（馬華文学）と比較しつつ、さらに、視野を日華文学と同様に見落とされがちな北東アジア圏の朝鮮半島における華人文学へと広げつつ、文学性そのものだけでなく、移民社会と地域社会の変容、アイデンティティの葛藤、バイリンガルと文化移動、ネイティブとディアスポラなどのテーマを 2 セッションに分かれて議論し、交流文学研究に資するものとする。

以上のように、JCASでは、さまざまな公募プログラムを実施しています。すべてのプログラムに通底するのは、JCASのネットワークを活用して、あらゆる分野で組織横断型の連携を促進し、地域研究を推進するための新しいネットワークを構築することです。JCASの公募プログラムに積極的にご参加いただくと同時に、みなさまからの斬新なアイデアを募集しています。ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



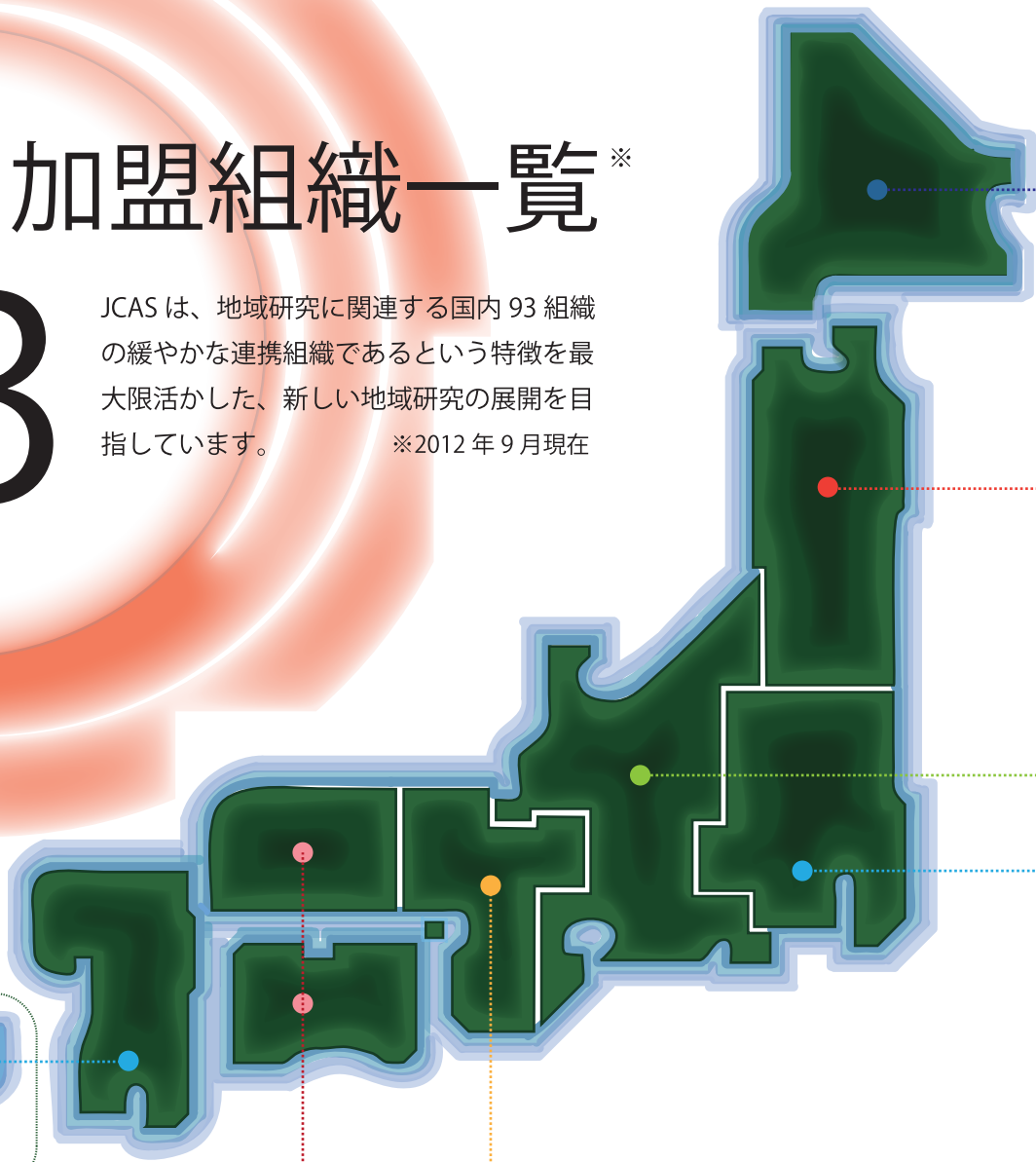
公募プログラムで集う研究者達。組織を超えた JCAS ネットワークは、新たなつながりを生み出します。

JCAS 加盟組織一覽※

93

JCAS は、地域研究に関連する国内 93 組織の緩やかな連携組織であるという特徴を最大限活かした、新しい地域研究の展開を目指しています。

※2012 年 9 月現在



中国・四国

- 鳥取大学乾燥地研究センター
- 島根県立大学北東アジア地域研究センター
- 高知大学大学院総合人間自然科学研究科
・黒潮圏総合科学専攻

九州

- 九州大学韓国研究センター
- 九州大学熱帯農学研究センター
- 長崎大学熱帯医学研究所
- 立命館アジア太平洋大学
- 鹿児島大学大学院人文社会科学研究科
地域政策科学専攻
- 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
- 琉球大学熱帯生物圏研究センター

近畿

- 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- 京都大学人文科学研究所
人文学国際研究センター
- 京都大学地域研究統合情報センター
- 京都大学東南アジア研究所
- 京都大学防災研究所
- 京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所
- 京都外国語大学国際言語平和研究所
- 同志社大学アメリカ研究所
- 同志社大学 一神教学際研究センター
- 同志社大学大学院
グローバル・スタディーズ研究科

- 日本マレーシア学会
- 日本アフリカ学会
- The Japanese Society for Slavic and East European Studies (日本スラブ東欧学会)
- 日本熱帯生態学会
- 人間文化研究機構総合地球環境学研究所
中国環境問題研究拠点
- 大阪大学
グローバルコラボレーションセンター
- 大阪大学大学院人間科学研究科
グローバル人間学専攻
- 大阪大学中国文化フォーラム
- 大阪大学大学院言語文化研究科
- 大阪経済法科大学アジア研究所
- 人間文化研究機構国立民族学博物館
- ラテン・アメリカ政経学会
- NPO 平和環境もやいネット

北海道

- 北海道大学スラブ研究センター
- 新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」
- 北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」

東北

- 東北大学東北アジア研究センター
- 宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所
- 宮城学院女子大学国際文化学科

中部

- 新潟県立大学
- 静岡県立大学大学院国際関係学研究科
附属グローバル・スタディーズ研究センター
- 富山大学極東地域研究センター
- 愛知大学国際中国学研究センター
- 愛知大学国際問題研究所
- 名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター
- 名古屋大学法政国際教育協力研究センター
- 名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科

関東

- 宇都宮大学大学院国際学研究科
- 独立行政法人森林総合研究所
国際連携推進拠点
- 筑波大学大学院人文社会科学研究科
国際地域研究専攻
- 筑波大学北アフリカ研究センター
- 学習院大学東洋文化研究所
- 慶応義塾大学東アジア研究所
- 上智大学大学院グローバル・スタディーズ
研究科地域研究専攻
- 上智大学アジア人材養成研究センター
- 上智大学アジア文化研究所
- 上智大学イベロアメリカ研究所
- 東京大学大学院総合文化研究科
地域文化研究専攻
- 東京大学大学院農学生命科学研究科
農学国際専攻
- 東京大学大学院総合文化研究科
附属アメリカ太平洋地域研究センター
- 東京大学東洋文化研究所
- 東京外国語大学大学院総合国際学研究科
- 東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
- 東京外国語大学
史資料ハブ地域文化研究拠点
- 東洋大学アジア文化研究所
- 日本大学国際関係学部国際関係研究所
- 日本大学生物資源科学部国際地域研究所
- 法政大学大学院国際文化研究科
- 一橋大学経済研究所
- 明治大学軍縮平和研究所
- 立教大学アジア地域研究所
- 早稲田大学アジア研究機構
- 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
国際関係学専攻
- 日本華僑華人学会
- 日本南アジア学会
- 東南アジア学会
- アメリカ学会
- 財団法人 アジア政経学会
- 財団法人 東洋文庫現代中国研究資料室
- ジャパン・プラットフォーム
- 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所
- 特定非営利活動法人 HANDS
- 独立行政法人国際交流基金
日本研究・知的交流部
- 日本カナダ学会
- 日本現代中国学会
- 日本中東学会
- 日本ラテンアメリカ学会
- ユーラシア研究所
- 日本貿易振興機構 アジア経済研究所
- 東京大学空間情報科学研究センター
- FIAL-イベリア&ラテンアメリカ フォーラム
- 法政大学大学院 中国基層政治研究所
- Asian Barometer
(アジア・バロメーター・プロジェクト)

2012 JCAS 年次集会 関連スケジュール

11/3

(土)

10:00 ~ 18:00

年次集会

会場：北海道大学スラブ研究センター 4 階大会議室
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/center/srcmap-j3.html>

プログラム

総会 10:00 ~ 12:05

- 会長挨拶
- 新規加盟組織紹介
- 活動報告
- 次世代ワークショップ報告
- 地域研究コンソーシアム賞授賞式

一般公開シンポ 13:30 ~ 18:00

「地域研究と自然科学の協働—広域アジアの地域研究を例に—」

- 課題 1：ロシアの森林火災
- 課題 2：インドネシアの泥炭
- 課題 3：北アフリカ（スーダン）における砂漠化の防止
- 課題 4：鳥インフルエンザの問題

ポスター・セッション 13:30-18:00

10/27

(土)

10:00 ~ 20:00

コンソーシアム ・ウィークの催し

会場：立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館 3 階多目的ホール

シンポジウム

「アジアのディアスポラ文学：
日本とマレーシアの交流文学事例から」

講師 田原（東北大学講師、作家）
藤田梨那（林叢）（国土舘大学文学部教授、作家）
張石（中文導報編集局長、作家）
林祁（国立華僑大学華文学院教授、作家）
金恵俊（釜山大学中国研究学部教授）
廖赤陽（武蔵野美術大学造形学部教授）
宮原暁（大阪大学グローバルコラボレーションセンター副センター長、准教授）
及川茜（神田外語大学アジア言語学科専任講師）
舛谷鋭（立教大学観光学部交流文化学科教授）

11/4

(日)

13:00 ~ 17:10

関連イベント：2012 年度内陸アジア史学会大会

会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W 棟）409 室

公開講演 13:00-14:00

「前近代中央アジアの国家と交易」 荒川正晴（大阪大学教授）

研究発表 14:15-17:10

- 「カーディル・アリー・ベグとその史書について—ジョチ・ウルス『内部史料』の史料的可能性とその歴史認識—」
長峰博之（希望学園北嶺中・高等学校教諭）
- 「大陸における『対喇嘛教』活動—満州国興安北省を中心に—」
高本康子（北海道大学スラブ研究センター学術研究員）
- 「ロシア統治下におけるクルグズ首領層の権威—遊牧世界とイスラーム世界のあいだで—」
秋山徹（日本学術振興会特別研究員・東洋文庫）

編集後記

JCAS の存在と活動が、一部の加盟組織だけではなく、日本学術会議や文部科学省からも認知されるようになってきました。しかし、加盟組織に属するひとりひとりの研究者が日々の研究活動の中で JCAS の活動を認知することはまだまだ少ないと思われます。そこで、通常のニュース記事とは異なり、今回のニュースレターは、ここ数年で急拡大した JCAS の活動を紹介する特集号としました。開かれた連携組織であることを活かした JCAS らしい活動についてアイデアがありましたら、随時、事務局までお知らせください。

地域研究コンソーシアム・ニュースレター No.13
発行 2012 年 10 月

編集

地域研究コンソーシアム事務局
NL 担当・編集責任 柳澤雅之
編集協力・デザイン 原由里子

発行

地域研究コンソーシアム事務局
〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46
電話：075-753-9603
FAX: 075-753-9602
E-mail: jcasjimu@jcas.jp

印刷

株式会社 土倉事務所
TEL 075-451-4844